木村　忠正
東京大学大学院総合文化研究科　准教授

エスノグラフィーにもとづく情報行動研究

本研究は、情報行動を、定量的アプローチではなく、フィールドリサーチ、質的研究の観点からアプローチするための方法論的課題と対応を明確にし、具体的な「サイバー・エスノグラフィー」的調査を立案、実施することを通して、現代日本社会における情報ネットワークを含みこんだ社会的活動空間のあり方の一端を立体的に分析、記述することを目的としたものである。
本研究では、まず、Virtual Ethnography 論と Mixed Methods という本研究の方法論的視座を提示し、質的研究の必要性と、それをさらに定量的研究と組み合わせ、融合される方法論を導入することとした。ついで、そうした方法論にもとづいた具体的なリサーチデザインを策定した。それは、4 日分の情報行動を中心にした日常行動の記録収集と 3 回にわたる構造化、非構造化インタビューにより構成される。そして、その結果得られたデータの分析として、これまで以下の 2 つの観点から分析、成果の取りまとめを行った。一つは、質的調査の弱点である代表性に関連し、質的調査協力者たちの相対的位置づけに関する分析の結果、情報コミュニケーション行動において、大学生全般と大きく異なることがないことを示した。その上で、マイミクに関して、数理社会学的、情報科学的 SNA（社会的ネットワーク分析）ではなく、質的アプローチと融合した SNA を探索的に試みた。その結果、「オンライン」を介した人間関係が、オンラインだけの薄い関係ではなく、大学生の人間関係において、学校、サークルに次ぐ、大きな位置を占め、音声通話、携帯メールなどを含めた重層的コミュニケーションから成り立つ関係へと発展していることを、定量的データ、定性的記述によって明らかにした。

研究成果

ヴァーチュアル・エスノグラフィー：
　定性・定量融合法としてのエスノグラフィー
　　文化人類学研究（早稲田大学文化人類学会）第 10 巻，p696-699，2009

「サイバースペース」
　　『文化人類学事典』日本文化人類学会編 p696-699，丸善，2009

「ヴァーチュアル・エスノグラフィー」

『文化人類学事典』日本文化人類学会編，p700-701，丸善，2009